

6月 June

9・10	■兵庫医療大学	リーダーズキャンプ	P13
13	■兵庫医科大学病院	市民健康講座「複視－物がふたつに見える－」	
16	■兵庫医科大学	教授就任を祝う会	P7
18	■兵庫医科大学	Advanced OSCE	
23	■ささやま老人保健施設	家族交流会	P19
25	■兵庫医療大学	高等学校対象入試説明会	P5
	■兵庫医療大学	入学生、在学生特別奨学生証授与式	P13
26	■ささやま医療センター	ささやま医療センター 厚生労働省近畿厚生局による施設基準等に 係る適時調査(実地調査)	
29	■兵庫医療大学	仕事研究セミナー	
30	■兵庫医科大学	第1学年次 心肺蘇生法実習	P5



6/25 ■兵庫医療大学
平成25年度 高等学校等教員対象入試説明会

M棟204講義室にて平成25年度高等学校等教員対象入試説明会を開催し、高等学校の進路指導教員36名と、予備校の教員4名の先生方に出席いただきました。入試説明会では、昨年度の入試総括や今年度の入試概要説明、各学部を紹介を行いました。また説明会后、希望に応じて授業参観を含めたキャンパス施設見学、個別相談などにも参加していただきました。



6/29 ■兵庫医療大学
第18回仕事研究セミナー
「家屋改造に関する作業療法士の仕事について」を開催

M棟108講義室において、全学部学科を対象とした「仕事研究セミナー」が開催されました。

「家屋改造に関する作業療法士の仕事について」というテーマで、パナソニックエイジフリーショッप्ス株式会社の船谷俊彰氏を講師にお招きし、ご自身が作業療法士として培ってきた経験をどのように企業で生かして仕事をしているかなどについて、お話し頂きました。

参加した学生たちは、授業や実習では馴染みが薄い福祉用具の扱い方や、障がい者が暮らしやすい住環境をどのように整備しているかなどの貴重なお話を聞くことができ、自身のキャリアについて改めて考える良い機会となりました。



6/30 ■兵庫医科大学
平成24年度 第1学年次心肺蘇生法実習

兵庫医科大学第1学年次を対象に心肺蘇生法実習が行われました。日本国際救急救助技術支援会【JPR】より10名のインストラクターの方をお招きし、AEDの使い方や人工呼吸、心臓マッサージの方法を指導いただきました。

救命救急センター 久保山講師からは、「事故等に遭遇した場合は医学生として、たとえ1年生であっても一歩踏み出し、蘇生を行ってもらいたい。」と医学生の心構えについて述べられました。

7月 July

2	■兵庫医科大学病院	第1回フロンティア医療セミナー	P14
4	■兵庫医科大学病院	市民健康講座「睡眠障害とその対策」	
	■ささやま老人保健施設	七夕会	P20
6	■兵庫医療大学	七夕講演会	
7	■兵庫医科大学病院	阪神病連携実務者連絡会	
9～11・13	■兵庫医科大学	第1学年次 早期臨床体験実習Ⅰ	P6
10	■兵庫医科大学	高校・予備校教員対象入試説明会	
17	■兵庫医療大学	第21回 神戸市長と神戸市内大学長の懇談会	
18	■兵庫医科大学病院	市民健康講座「口とのどの癌の放射線治療」	
20	■兵庫医科大学	第4学年次 トリアージ、除染訓練	P10
20・21	■兵庫医科大学	ミニワークショップ(教員対象)	
21	■兵庫医療大学	薬学部×兵庫医科大学病院薬剤部 合同イベント	P11
23	■兵庫医科大学	兵庫県下スーパーサイエンスハイスクール 指定校の学生による実験実習	P10



7/6 ■兵庫医科大学
全国同時七夕講演会2012 ～太陽活動と地球、そして人類～

今年で4回目を迎える「全国同時七夕講演会」が開催され、共通教育センターの加藤精一准教授が講演を行いました。在学生や、地域の方々も多数参加し、熱心に話を聞かれていました。

今回は今年5月に関西では282年ぶりとなる金環日食で話題となった、「太陽」中心に講演が行われました。太陽が引き起こす様々な現象がどのように地球に影響を及ぼしているかなど、最新の画像を交えながらわかりやすく解説されました。



7/7 ■兵庫医科大学病院
第4回 阪神病連携実務者連絡会

阪神病連携実務者連絡会は地域病院の転院調整担当者(医療ソーシャルワーカーや看護師が中心)を対象とし、年に1回開催しています。第4回となる今回は地域医療・総合相談センター中野孝司センター長による挨拶のあと、認知症疾患医療センターの紹介、認知症患者の退院調整について意見交換が行われました。



7/9～11・13 ■兵庫医科大学
早期臨床体験実習Ⅰ

第1学年次対象の早期臨床体験実習が兵庫医科大学病院・ささやま医療センターにて行われました。9日に全体のオリエンテーションが実施され、10日と11日には各病棟に分かれ指導担当看護師のもと実習が行われました。入学間もない第1学年次に臨床現場に触れる機会を設け、医学生としての自覚を培うとともに、患者さんに寄り添う看護師の仕事を体感することで医療職種間の連携「チーム医療」を学ぶことを目的としています。最終日の13日には各グループのまとめを発表し、実習で学んだことを互いに共有しました。



7/10 ■兵庫医科大学
高校・予備校教員対象入試説明会

高等学校及び予備校の先生方を対象とした入試説明会を開催しました。高等学校は18校22名、予備校は11校15名の先生方にご参加いただき、若林教務部長からの挨拶の後、関入試センター長から平成25年度入試の概要について、続いて鈴木医学教育センター長から学習支援制度概要の説明を行いました。質疑応答や、希望される先生には個別相談・キャンパス見学などを行い、受験生を送り出す先生方にも兵庫医科大学を深く知っていただく機会となりました。



7/17 ■兵庫医療大学
第21回 神戸市長と神戸市内大学長との懇談会

平成12年から開催されている神戸市長と神戸市内にある大学、短大等の学長との懇談会が、7月17日兵庫医療大学で開催されました。松田学長が議事進行を務めるなか、『「大学と教養教育」～教育を育むために、大学が、行政ができること～』を議題に3つの大学から自大学の取り組みが紹介され、随時意見交換が行われました。末廣副学長が医療総合大学としての教養教育のあり方等について発表され、最後に矢田神戸市長が、「次世代のこどもを健全に育み、社会に送り出していくためには何が必要か、各機関が協力して議論を重ねていくことが重要です。」と述べられ閉会しました。

教授就任を祝う会

平成24年6月16日、ホテルオークラにて教授就任を祝う会が行われました。教授就任を祝う会は、兵庫医科大学同窓会「緑樹会」の主催で、兵庫医科大学の卒業生で教授に就任された方を祝う会として開催されています。

教授に就任された5名の先生方による講演会が行われ、続く祝賀会では、兵庫医科大学同窓会「緑樹会」の細見基信会長の開会の挨拶を皮切りに、新家理事長、波田副理事長、中西学長をはじめ、たくさんのご祝辞や励ましのお言葉を頂き、多数の参加者のもと盛会裡に閉会となりました。今後それぞれの分野でのますますのご活躍をお祈り申し上げます。

【教授に就任された先生による講演会】

兵庫医科大学地域総合医療学講座／ささやま医療センター 下村 壯治 教授(4期生)
「肝発癌抑制を目指したC型肝炎対策」

兵庫医科大学病理学講座 機能病理部門 中正 恵二 教授(5期生)
「混合型肝癌combined hepatocellular and cholangiocarcinomaについて」

関西福祉科学大学 保健医療学部・リハビリテーション学科 森 禎章 教授(13期生)
「蝸牛内直流電位の発生・調節機構の解明を目指して」

朝日大学歯学部総合医科学講座内科学分野(呼吸器内科) 栗林 康造 教授(19期生)
「肺癌最新治療－進行非小細胞肺癌化学療法を中心に－」

兵庫医科大学機能再生医療学講座／ささやま医療センター 山本 憲康 教授(19期生)
「心肺蘇生から地域医療へ～よみがえる命のために～」



左から下村教授、中正教授、森教授、栗林教授、山本教授



留学成果報告

本学では医療のグローバルな視点を育むため、国際交流活動を推進しています。海外の医療事情に積極的に関心を持ち、学生の視点で世界の医療現場を体験するため、コロンビア大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校での病棟研修を実施しました。

コロンビア大学

平成24年4月2日～4月27日の約4週間、コロンビア大学にて本学第6学年次の学生1名が病棟研修を行いました。本研修は循環器内科主任教授の増山理先生と米国・コロンビア大学のDr. Shunichi Hommaのご厚意により、第6学年次学生を対象に平成18年から実施しています。



第6学年 岩根 成豪

Columbia University Medical Centerでのプログラムを志望したのは、循環器に興味があり循環器の実習を海外でしかかったことと日本とアメリカの医療の違いを肌で感じたからです。また昨年の8月にフランスのパリ大学で臨床実習を行っていたのでヨーロッパとアメリカとの比較もしてみたいと思いました。私がこの実習で期待していたことは、アメリカの医学生と同様に実習することでした。CCUとコンサルトチームでFellowの下でアメリカの学生と一緒に実習をして思ったことは、学生が実習に対して非常に積極的であり、それに対してFellowが熱心に教えてくれるということです。また、カンファレンスではFellow同士の議論が活発でとても刺激になりました。この留学で学んだことは、自分がしたいことを意思表示しなければ何も始まらないということと、わからないことがあれば質問しそのことについて議論する積極的な姿勢です。これからはこの経験を生かして積極的に物事に取り組み、向上心を持っていきたいと思っています。



写真右：岩根 成豪さん

カリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD)

平成24年4月23日～5月20日の約4週間、カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)にて本学第6学年次の学生2名が病棟研修を行いました。本研修は超音波センター教授の飯島尋子先生のご厚意により、今年度初めて実施されたものです。



第6学年 東 幸太

今回、アメリカの医療現場というものを目の当たりにし、本当に多くのことを学びました。今回の留学でアメリカと日本の医療の違いを学んで帰ってきたいと思い、実際診断方法、治療方法、保険制度、どれをとっても日本とは違っていました。どちらの国の方が優れているといったことではなく、お互いに長所短所があり、重要なのはお互いの良いところを導入出来れば、より良い医療を提供できるのではないかと思います。

またアメリカの医師、医学生を問わずみんな積極的で、その辺りが日本人がやや劣る点だと思いました。向こうでは自分から行動を起こさないと、誰も面倒を見てくれません。



日本という国を客観的に見て初めて見えてくるものがたくさんあります。言語の壁や、慣れない海外でのホームステイなど色々苦労はありましたが、得たもの、感じたことを考えると本当にこのプログラムに参加出来て良かったです。今回得たものを今後の医者人生の中で生かしていけるよう頑張りたいと思います。



写真右：東 幸太さん

第6学年 山本 奈菜子

カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部の消化器内科で、4週間臨床実習をさせていただきました。指導医の先生方が私のひっきりなしの疑問に答えてくださり、毎日大量のことを学び吸収することができました。最初は聞き慣れない医学用語に戸惑い、細菌名や疾患名など、すぐにはピンと来ず悔しい思いをしたこともありましたが、それらがだんだん身に付き自分でも使えるようになるのが毎日のごほうびのように感じられました。UCSD病院の実習に慣れてくると、医学は私の想像以上に世界共通であるということです。当たり前ようですが、兵庫医大で今まで学んだ知識が、言葉が違

うだけでここでも全く同じように通用するということがとても新鮮で面白かったです。日本語で身に付けてきた知識に、ここで見る症例を対応させて比較すると見えてくるものがたくさんありました。メキシコからの紹介患者さんを通訳してもらいながら問診をとったり、保険を持っていない人が救急で運ばれて来たり、体重200kgの人に胃瘻を設置したり、初めての経験がたくさん印象に残っています。

毎日学ぶことには限りないですが、逆に日本の医療の良さを実感したことも事実です。特に内視鏡などの手技に関しては日本がいかに進んでいて多くの症例があるかが分かりますし、日本の医療が世界的にどれだけ高く評価されているかも感じられました。たくさんさんの素晴らしい先生や学生に出会い、UCSDでの4週間はあっという間に過ぎていきましたが、言葉では説明しきれないほど価値のあるものでした。将来私が医師としてこの4週間を振り返った時、この経験とインスピレーションがさらに生かしていることが本当に楽しみです。



平成23年度 教員及び大学院生学術賞 授与

「平成23年度兵庫医科大学教員及び大学院生学術賞」の授与式が、平成24年7月5日の教授会において行われました。教員学術賞は表彰状(盾)と副賞(奨励金)が、大学院生学術賞は表彰状(盾)と記念品が、中西学長から贈られました。

・教員学術賞・



安田 好文
免疫学・医動物学 助教

・大学院生学術賞・



田片 将士
神経眼科学専攻

教授就任



耳鼻咽喉科学
三代 康雄
平成24年8月1日就任

昭和61年	3月	大阪大学 医学部 卒業
	7月	大阪大学医学部附属病院耳鼻咽喉科 研修医
昭和62年	4月	大阪労災病院耳鼻咽喉科 医員
平成6年	1月	大阪大学医学部耳鼻咽喉科学講座 助手
平成12年	2月	大阪大学医学部耳鼻咽喉科学講座 講師
平成18年	4月	兵庫医科大学耳鼻咽喉科学講座 准教授
平成20年	11月	アメリカ合衆国Massachusetts Eye and Ear Infirmary 留学
平成21年	1月	兵庫医科大学耳鼻咽喉科学講座 准教授復職
平成24年	8月	兵庫医科大学耳鼻咽喉科学講座 教授



形成外科学
西本 聡
平成24年8月1日就任

平成元年	3月	大阪大学医学部 卒業	平成13年	2月	兵庫県立こども病院形成外科 科長
	7月	大阪大学附属病院皮膚科 研修医	平成18年	4月	兵庫医科大学形成外科 講師
平成2年	7月	大阪大学医学部皮膚科学講座 研究生		11月	兵庫医科大学形成外科 助教授
		大阪警察病院形成外科 研修医	平成19年	4月	兵庫医科大学形成外科 准教授
平成3年	7月	竹田綜合病院整形外科 医員	平成24年	8月	兵庫医科大学形成外科 教授
平成5年	4月	大阪府立病院形成外科 医員			
平成6年	4月	大阪警察病院形成外科 医員			
平成7年	1月	箕面市民病院形成外科 医員			
	10月	大阪大学医学部皮膚科 文部教官助手			
平成9年	7月	大阪府立成人病センター耳鼻咽喉科 診療主任			
平成11年	5月	医学博士(大阪大学) 取得			
平成11年	7月	Pittsburgh University Department of Plastic Surgery research fellow			
平成12年	1月	Pittsburgh Children's Hospital research fellow			

産科婦人科学 小森 慎二 主任教授ご逝去

兵庫医科大学産科婦人科学 小森 慎二 主任教授におかれましては、かねてより療養中のところ、平成24年6月21日にご逝去されました。

ここに生前のご厚誼を深謝し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

※ 平成24年9月1日挙行の兵庫医科大学葬については次号の広報218号にて掲載します。

トリアージ、除染訓練の実施

平成24年7月20日、第4学年次生を対象に、災害時や大事故時において多数の傷病者の緊急度を見分け、治療や搬送の優先順位を決める「トリアージ」の訓練を行いました。想定は大型バスが横転、多数の負傷者が発生したという状況で、学生が医療者役と傷病者役に分かれて交代で訓練に取り組みました。傷病者役はムラージュ(特殊メイクで外傷を模造する技術)を施されて演技をし、医療者役の学生は傷病者役の意識や外傷、呼吸数などをチェックしながらSTART法と呼ばれる判定方法を用いてトリアージタグをつけていきました。

午後からは、NBC災害(放射性物質や化学物質の漏洩事故、生物・化学兵器テロなど)による汚染を想定した除染訓練を実施しました。まず、英国スタフォードシャ救急局S.C.A.T(特殊災害医療チーム)の今中氏より個人防護具の種類や着脱方法、着用時の注意点などについて指導を受けました。さらに5号館南側の芝生広場に除染テントを設営し、個人防護具を着用した救命救急センターの医師らが、汚染した傷病者役(学生3人)の除染を行いました。



トリアージ訓練



個人防護具の着脱方法の説明



除染訓練

兵庫県下スーパーサイエンスハイスクール指定校の学生による実験実習が行われました

平成24年7月23日・24日の2日間にわたり、兵庫県内のスーパーサイエンスハイスクール※として指定された高校8校及びその他の高校の理系生徒の合宿研修が行われました。この研修会では、生徒同士が相互に学び合い、交流し合って研究活動を活性化させることを目的とし、高校の授業を超えた探究的活動を体験します。研修プログラムの1つである大学での実験実習にて、本学でも15名の高校生が医学にかかわる実習を行いました。

臨床遺伝部 玉置知子主任教授による「ゲノムでみる個人の違い」、医学教育センター 高橋敬子准教授による「心臓のドキドキに触れてみよう!」のプログラムが開催され、参加した高校生みなさんは、DNAのゲル電気泳動や染色体観察を行ったり、聴診器を使って心音を聞いたり、高校の授業では体験できない実習に目を輝かせていました。和気あいあいとした和やかな雰囲気の中でも、熱心にメモを取り、先生に積極的に質問をして真剣に取り組んでいました。

※ 文部科学省から指定された科学技術や理科・数学教育を重点的に行う高校



3-2講義室「ゲノムでみる個人の違い」



総合研修棟「心臓のドキドキに触れてみよう!」

財団法人等各種団体による研究助成金等の交付状況

(単位:千円)

助成団体名	研究課題名	研究者	交付額
公益信託加藤記念難病研究助成基金	遺伝子改変マウス(Atp1a3+/-)を使った家族性ジストニアパーキンソンニズムの病態解明	池田 啓子	2,000
(公財)村田学術振興財団	2層系V=1量子ホール状態におけるスピン-擬スピンの絡み合った励起状態の核スピン緩和による研究	寺澤 大樹	300
(財)厚生会 仙台厚生病院	クロシドライト(青石綿)による中皮細胞癌化プロセスの進行予測指標に関する研究	中野 孝司	5,000
(社)神緑会	画像診断学習システムの実証実験における放射線技師のニーズ調査	前田 弘彰	400
(公財)日本アレルギー協会	IL-33と好塩基球を標的とした新規アレルギー性鼻炎治療技術の創出	善本 知広	1,000
(公財)ひょうご科学技術協会	肺への抗原曝露によるTh2応答誘導機構の解明	松下 一史	1,000

■ 兵庫医療大学薬学部×兵庫医科大学病院薬剤部 合同イベント 「“絶対に”他では聞けない！？“クスリ”の話」を開催

平成24年7月21日、兵庫医科大学にて、「絶対に”他では聞けない！？“クスリ”の話」と題したイベントが開催されました。このイベントは、薬学部を目指す高校生を対象に、より一層薬学に興味を持ってもらいたいという思いから、兵庫医療大学薬学部と兵庫医科大学病院薬剤部が合同で企画・実施しているもので、今年で3回目を迎えます。当日は昨年に引き続き多くの方にご参加いただきました。

イベントは3部で構成され、各部ともに“クスリ”の世界を分かりやすく紹介しました。

◆ 第1部 薬学研究者によるミニ講義

「高血圧と薬の話：薬は飲まない方がいいの？」 辻野 健 教授（兵庫医療大学薬学部：薬物治療学）

血圧が高い、と言われたら薬を飲むべき？そんな話をテーマに薬と病気の関係について、高校生にも分かりやすく説明されました。



「知っていたらタメになる！クスリの飲み合わせ」 藤野 秀樹 講師（兵庫医療大学薬学部：薬物動態学）

クスリは、ジュースやサプリメントと合わせて飲んでしまうと、その効果が変わってしまったり、場合によっては大変危険な状態になってしまうことも…。クスリが人体に及ぼす影響など、具体的に分かりやすく説明がありました。



◆ 第2部 薬剤師による本音トーク

兵庫医科大学病院薬剤部の薬剤師3名をお迎えして、薬の調製、調剤、服薬指導など、大学病院で働く薬剤師の1日の仕事内容をお話いただきました。またフリートークでは、薬剤師の仕事の日々のやりがいや、患者さんとの知られざるエピソードなど、普段なかなか聞くことのできない現場での貴重なお話を、高校生はもちろん保護者の方も興味深そうに聞いていました。

また東日本大震災直後に兵庫医科大学病院の救護医療チームの一員として派遣された薬剤師から、現地での様子が紹介され、困難な状況での救護活動が報告されました。



◆ 第3部 病院薬剤部見学会

特別イベントとして事前に参加申し込みをされた高校生を対象に兵庫医科大学病院薬剤部の見学会が行われ、普段は見るることのできない無菌調剤室やがんセンター外来化学療法室などを見学していただきました。薬剤部の内部見学は、現場で働いている兵庫医科大学病院の薬剤師が案内し、調剤方法や投与する際の注意点など日常における薬剤師業務について具体的なお話があり、高校生はとても興味深く耳を傾けていました。



参加した高校生からは「普段決して見るることのできない薬剤部や聞くことのできない薬剤師さんのお話を聞くことが出来て、とても充実した見学会でした。」「普通では見ることができない奥まで見ることができて本当に良かったです。」などの感想があり、大盛況のうちに幕を閉じました。

■ 平成24年度 若手研究助成金採択者一覧

標記助成金は18件の応募があり、若手研究助成金選考要領に基づき、研究推進委員会で審査した結果、下記のとおり採択いたしました。

また、若手研究者に助成金の支援を受ける機会を多く確保することを目的に、助成金の配分額を1人25万円から20万円に減額し、採択件数を増やし、助成制度を充実いたしました。

所属学部	職	氏名	研究課題名
薬学部	講師	桂木 聡子	災害におけるコミュニティファーマシーの役割 ～防災・備えおよび支援活動における薬物適正使用を中心に～
薬学部	講師	長野 基子	ヒトバベシア症を引き起こすネズミバベシア(<i>Babesia microti</i>)の主要抗原の探索 ～ヒトバベシア症の診断法の開発を目指して～
薬学部	講師	藤野 秀樹	サル肝臓に特異的に発現する薬物代謝酵素CYP2C76の機能解明に関する研究
看護学部	講師	工藤 里香	月経に関する思春期女子の健康行動の関連要因 一母娘間の健康行動の関連に注目して一
薬学部	助教	伊藤 崇志	骨格筋における浸透圧応答シグナル伝達を介したリンパ管新生
薬学部	助教	岩岡 恵実子	生薬・海洋生物由来の内因性血管新生阻害物質活性化を標的とした新規抗がんリード化合物の探索
薬学部	助教	大野 喜也	悪性中皮腫スフェロイドの癌幹細胞様特性の解明とヒアルロン酸による制御
薬学部	助教	清水 忠	糖尿病を標的とした新規低分子治療剤の創製と作用メカニズム解析
薬学部	助教	塚本 効司	有害重金属イオンを可視化する蛍光プローブの開発
薬学部	助教	吉岡 英斗	多成分連結反応を基盤とした新規プローブ合成とその応用

■平成24年度 兵庫医療大学リーダーズキャンプを実施

平成24年6月9日、10日の2日間、課外活動及び学生会活動の主体となる学生会執行部、大学行事实行委員会、公認課外活動団体幹部学生のリーダーを中心に各活動の活性化やリーダーシップの養成を図るリーダーズキャンプが、兵庫県三木市にあるグリーンピア三木で実施されました。

各団体のリーダーである学生たちは、この2日間にグループワークや討議などのプログラムに取り組み、リーダーとしての役割について学びました。

■グループワーク・討議

議題「兵庫医療大学学生会もしくは課外活動全体が活発化するために取り組むべき課題は何か」

まず初めに自己紹介を行い、グループメンバーとのコミュニケーションを通して相互理解を深めました。その後、各グループで今回の議題について討議を実施。昨年参加した先輩が、ファシリテーターとして参加したこともあり、白熱した議論が展開されました。

■グループ討議結果発表、グループ間会議

いくつかのグループが集まってユニットを形成し、各グループの成果を発表しました。その後、ユニット間で意見交換や意見集約が行われました。

参加した学生たちからは、団体内での役割の明確化や引き継ぎなどに問題があると考え、その解決方法として、他大学との交流を深めることや部員同士のコミュニケーションを密にするなど、積極的な意見があがっていました。

大学が主体となって行うリーダーシップの養成は、クラブ・サークル活動をはじめ、様々な学内イベントにおいても、その成果がみられるようになってきました。

今後も引き続き学生の人材養成の一環として取り組んでいきます。



■平成24年度入学生、在学生特別奨学生証授与式

平成24年度入学生・在学生特別奨学金の奨学生(薬学部の6年次生除く各学部学年全48名)に対する奨学生証の授与式が、平成24年6月26日、M107講義室で行われました。

冒頭に、この奨学金制度創設^(注)に携わってこられた馬場副学長から、「奨学生であることを誇りに思い、この兵庫医療大学を引っ張っていくような立派な人材になってください」との言葉が奨学生に贈られました。その後、各学部の奨学生は、それぞれ前田薬学部長代行、竹田看護学部長、藤岡リハビリテーション学部長から奨学生証と記念品のクリスタル文鎮が授与されました。



奨学生には、大学の発展のため、勉学とともに各種大学行事においても活躍されることを期待します。

※薬学部6年次奨学生の3名は、学事都合により別途平成24年8月22日に授与式を実施しました。



(注記)
この奨学金は、入試成績上位者に対して初年度学費を全額免除するもの(次年度以降も上位成績を維持すれば継続して全額免除)と、2年次以降の在学生に対して、各学部各学年の成績上位者を在学生奨学生として認定し、その年度の学費を半額免除するものがあります。この制度がスタートして2年目を迎え、在学生奨学生は今年度初めて選考されました。

第1回兵庫医科大学フロンティア医療セミナー

平成24年7月2日、「第1回兵庫医科大学フロンティア医療セミナー」が開催されました。このセミナーは、兵庫医科大学において、今どのような治療、研究が行われているのか、担当部門だけでなくすべての医療者や事務職員が情報を共有し、相互に理解することを目的としています。また、本学における先端医療、研究を共有することで兵庫医科大学のブランド力強化につながると期待しています。

記念すべき第1回は「我々が取り組む新しい非薬物療法」と題し、循環器内科の取り組みについて講演を行いました。



コーディネータ
循環器内科
増山 理 主任教授

「我々が取り組む新しい非薬物療法」 循環器内科

- | | |
|----------------------|----------|
| 1. 心不全に対する和温療法 | 講師 廣谷 信一 |
| 2. 高血圧に対する腎動脈アブレーション | 講師 藤井 健一 |
| 3. 大動脈弁狭窄に対するカテーテル治療 | 講師 藤井 健一 |
| 4. 造影剤を使わない血管内治療 | 助教 福永 匡史 |
| 5. 重症心筋虚血に対する衝撃波療法 | 講師 藤井 健一 |

※「2. 高血圧に対する腎動脈アブレーション」について詳細を次頁に掲載しています。



廣谷 信一 講師



藤井 健一 講師



福永 匡史 助教

第2回 兵庫医科大学フロンティア医療セミナーのお知らせ

平成24年9月24日

3-3講義室 17:00

コーディネータ ICU 西 信一 主任教授

■ 高血圧の新しい治療法 ～腎動脈周囲交感神経焼灼術 (renal denervation)～

循環器内科学 講師 藤井 健一
先進血管治療学講座 特任講師 川崎 大三
心疾患先端治療学講座 特任講師 峰 隆直
循環器内科学 主任教授 増山 理

日本人は昔から塩分を多く含む醤油や味噌を多く摂取している影響もあり、本邦における高血圧患者さんは3,000万人もいると言われています。高血圧はそれだけでは特別な症状があらわれるわけでもないため、すぐに命に係わるような心配が薄く、あまく考えてしまいがちですが、心臓病や脳卒中などを引き起こす原因となります。

血圧のコントロールは交感神経をはじめとする自律神経系やレニン-アンジオテンシン系をはじめとした液性因子などによって行われていて、現在臨床で使用されている降圧薬は主にこれらの機構をターゲットとしています。しかし、複数の降圧薬を内服しても目標血圧まで下がらない患者さんもおられ、このような高血圧を治療抵抗性高血圧と言い、高血圧患者さんの5%はそうであると言われています。

このような患者さんでは降圧薬を内服していても、延髄における交感神経活動が亢進し、心臓、細動脈、腎臓に作用して血管収縮、循環血漿量増加の結果、血圧が高くなります。今回我々の教室で行っている治療はカテーテルを用いて腎動脈周囲に網目状に走行する交感神経を焼灼切除し、延髄からの信号を遮断することにより血圧を下げようとするものです。

この治療を始めるにあたって、当教室の川崎先生と峰先生が動物実験を繰り返し行い、どのカテーテルを用いて、どれくらいの焼灼エネルギーをどのくらいの時間通電することによって、有効に且つ安全に治療できるのかを検討してきました。結果、8ワットのエネルギーを30秒間、両側の腎動脈に5

※ 本誌27ページで、本治療法に関する新聞記事を掲載しています。

～10回ずつ通電するのが、最も安全で有効であることがわかりました。

実際に本年2月より患者さんへの治療をはじめ、その効果に我々も驚きました。海外の文献では治療1ヶ月後より降圧効果が認められるとされていましたが、我々の教室で行った治療では、治療2日後には収縮期血圧が治療前とくらべ15～20mmHg下がっていることを確認することができました。この効果は3ヶ月以降現在まで持続しています。

本治療は交感神経を切除することにより高血圧を治しています。そのため、糖尿病、睡眠時無呼吸症候群、心不全など交感神経が関与している様々な疾患に応用することができるのではないかと考えています。今後も増山主任教授の下、教室一丸となって様々な治療抵抗性疾患の治療に挑戦していきたいと考えております。



■ メディカルラリー世界大会で3位入賞

メディカルラリーとは医師や看護師、救急救命士がひとつのチームとなり、模擬患者を時間内にどれだけの確に治療できるかを競う競技会で、交通事故や水難事故など様々な状況を想定し、情報収集、救出、治療、搬送の的確さを審査員が採点するものです。

6月にチェコで行われたメディカルラリー世界大会「Rallye Rejviz」にCCUの千島佳也子看護師が千里救命救急センターの医師3名・茨木市消防署の救急救命士1名とチームを組み参加しました。

世界各地から20カ国93チームが参加する中、千島看護師が所属するチームは日々の診療や治療の技術の高さを発揮し、みごと3位に入賞を果たしました。



東日本大震災 医療支援報告

岩手県立高田病院での医療支援

本学では平成23年3月11日の東日本大震災発生直後から災害派遣医療チーム(DMAT)や救護医療チームが現地に赴き、医療支援を行いました。その後、継続的な支援を行うため全国医学部長病院長会議や日本医師会などが「被災者健康支援連絡協議会」を発足させ、本学もその要請に応え現在も被災地へ医師を派遣しています。

6月には2名の整形外科医が岩手県立高田病院を訪れ、医療支援を行いました。復興にはまだ時間が必要な被災地。少しでも皆さんのお役に立てるよう、今後も全力で支援してまいります。



整形外科 奥野 真起子

このたび、私は岩手県陸前高田市にある高田病院に行ってきました。通常の外来だけでなく、仮設住宅での会合にも同行させていただき、仮設住宅での生活で運動不足にならないようにと、一緒に運動をしたり、医療相談に乗らせていただきました。

また患者さんだけでなく、スタッフの方々

も多くが被災されており、仮設住宅での生活を余儀なくされていました。しかしそれらの医師、看護師をはじめ病院スタッフの方々は私たちに明るく親切に接していただきました。外来では看護師の方が震災の日の話をしてくれましたが、最後に「津波がなければ・・・」とつぶやかれたことが印象に残りました。

震災から約1年半が経過し、関西に住む私たちには遠い地域の話になりつつあります。しかし、復興はまだまだであるということを実感させていただく機会を与えていただき、感謝すると同時に、そのことを伝えていかなければならないと感じています。



仮設住宅



津波被害を受けた院内



整形外科 高木 陽平

平成24年6月18日から22日、岩手県立高田病院に行ってきました。震災から1年以上の月日が経過した陸前高田市はまだ瓦礫が山積み大型施設は当初の状態です。我々が勤務した仮設の高田病院も医療機器が十分でなく、現在もリハビリ器具などを搬入しているような状況でした。整形外科は毎週診療医師が代わっているにも関わらず、患者様から不満を聞くことはありませんでした。患者様から1年数か月前の自分たちの町を懐かしむ声や、近くの整形外科の

診療所が流されてしまい高田病院に通っているという言葉聞き、震災が及ぼした影響を肌で感じました。今後はこの医療支援を通じて感じたことをできるだけ多くの人に伝えていきたいと思っています。



■ ハイチ呼吸器疾患に関する人材育成プロジェクト

兵庫医科大学第29回卒業生 おおるい はやと 大類 隼人



ハイチでの医療支援の様子

2010年1月12日、「忘れられた国」ハイチ共和国で、今世紀最大の惨劇と言われたハイチ大地震が起こり31万6千人の犠牲者が出ました。私は医療支援活動のため、2011年5月、ハイチ共和国を訪れた際、震災から1年5カ月が経過したとは思えぬ有様に大きな衝撃を覚えました。そこで、40年近くハイチで支援をされているシスター須藤昭子先生と出会い、ハイチの結核の現状を聞きました。そして継続的に医療を行う人材がいない現実を知り、持続可能な支援とは人材育成であると考え、私はまずハイチ人医師の人材育成を兵庫医科大学で行う計画を始めました。その後この計画を遂行するため、私は同志らと共に、国際医療支援団体、特定非営利活動法人Future Codeを創設するに至ります。



シスター須藤昭子先生と

ハイチ人医師教育プロジェクトでは、先端医療教育を目的としたものでなく、機械や設備のないハイチの現場でも生かすことのできる知識と技術を中心にプログラムを作りました。そして2012年6月5日、現地での医療従事を志すハイチ人医師のジェルタ・パスカル医師とグイー・ジャッセン医師が来日、兵庫医科大学へ招聘し、プロジェクトを開始いたしました。呼吸器外科、呼吸器内科、救命救急センター、感染制御部、放射線科、神戸市保健所の各先生方の協力を得て、結核をはじめとする呼吸器疾患や感染症の知識と対策、救急救命処置、防災システムの構築に至るま



仮設病院

で、大変充実したプログラムとなりました。

毎日とはとても忙しく、日本の生活に慣れない彼らにとってはより大変だったと思います。しかし私たちFuture Codeと兵庫医科大学、神戸市保健所も一丸となり、日本と同じ震災被災国であるハイチに思いを馳せながら、この1ヶ月半のプログラムを完遂することができました。一緒に付き添った私から見ても、多くを学べるものでありました。



心肺蘇生法トレーニング

帰国前の彼らの言葉です。「この全ての出会いを感謝します。ハイチのために、本当にありがとう。」これはこのプロジェクトに関わった全ての日本人に対するメッセージであり、そしてこれから自分たちがハイチ国内で創る未来への決意です。

1ヵ月半という時間では、厳しい現実や、ハイチの景色はそれほど変わらないのかもしれませんが、しかしながらこの1ヵ月半の時間こそが、これからのハイチの未来を創るものであったと、そうなるように願っております。そして私はこれからも、ハイチをはじめ、途上国の医療へ生きていく覚悟を決め、取り組んでまいります。

最後に、私の活動は兵庫医科大学から活動の環境をいただいたこと、そして呼吸器外科 長谷川誠紀主任教授を筆頭に、医局員の先生方の協力あつての事でありました。心より深く感謝を申し上げますとともに、これからもそのお気持ちに応えるため、精進してまいりたいと思います。



画像診断について



呼吸器外科での研修



感染制御部での研修

■ 健診センター 標準ドック 週3日実施

平成24年7月4日より標準ドックを月曜日・木曜日の週2日より月曜日・水曜日・木曜日の週3日実施しています。

新しく始まる水曜日に限り、胃の検査では口からの内視鏡検査に加え、鼻からの内視鏡検査や麻酔をかけて行う鎮静内視鏡検査を選択していただけるようになりました。

また、内視鏡検査中に精密検査が必要と判断された場合は、ご希望により組織を採取して病理検査を行います。(別途追加料金が発生します。)

水曜日限定

- ①経鼻内視鏡
標準ドック基本コース料金(49,350円)に含む
- ②鎮静内視鏡
追加料金 5,250円(税込)
- ③生検病理検査
追加料金 31,500円(税込)

お問い合わせは

健診センター ☎0120-682-711まで

■ 病院ボランティア 西宮市より表彰

本学病院で活動を行っている病院ボランティアグループが市民福祉の増進に寄与しているとして、その功績により平成24年6月1日、西宮市長より表彰されました。

病院ボランティアは地域に開かれた病院を目指し、一般の方のご協力のもと実施されているもので、初めて来院された外来患者さんへ初診手続きの補助や、入院患者さんへ入院日当日の受付のご案内、補助を行うなど、患者さんに安心して本学病院を利用していただくためのサポートを行っています。



■ 兵庫医科大学病院の組織変更について

平成24年8月1日より下記のとおり中央診療施設及び中央部門の組織を変更しました。

	平成24年7月31日まで	平成24年8月1日から
中央診療施設	中央放射線部 — 画像診断センター — 放射線治療センター — IVRセンター	放射線医療センター — 画像診断部 — 放射線治療部 — IVR診療部 — 核医学・PET診療部
	核医学・PETセンター	
	中央手術部	手術センター
中央部門		放射線技術部(新設)
		臨床検査技術部(新設)

※変更、新設の組織のみ掲載

第3回 言語聴覚研究 優秀論文賞 受賞

兵庫医科大学ささやま医療センター 医療技術部門 リハビリテーション室
言語聴覚士 福岡 達之

昨年度に私どもが雑誌「言語聴覚研究」に掲載した原著論文「嚥下障害患者に対する随意咳嗽の空気力学的測定と誤嚥の関連」が第3回言語聴覚研究優秀論文賞に選ばれ、平成24年6月15日に福岡市で開催された第13回日本言語聴覚学会総会において表彰を受けました。

この研究では、嚥下障害のある患者さんに対して咳払いの評価を行い、その結果と嚥下造影検査との関係について調査しました。咳分析の項目と誤嚥との間に有意な関係があったことから、嚥下障害を評価する方法として本測定法の有用性を報告いたしました。論文の作成にあたっては、多くの先生方にご指導を賜り、心より感謝しております。今回の受賞を励みに、嚥下リハビリテーション医療の発展に少しでも貢献できるようこれからも精進してまいります。



家族交流会を開催しました

平成24年6月23日、ささやま老人保健施設で家族交流会を開催いたしました。この交流会は、利用者のご家族の悩みや相談に対して、職員と家族又は家族同士で話し合いの場を提供させていただいているものです。

今回は事前にアンケート調査を実施し、食事・リハビリ・介護についての悩み・相談をまとめ、それに沿った話し合いをさせていただきました。

当日は、約30名の方々に参加いただき、在宅生活での悩みや日頃の介護について家族同士で意見交換をされたり、施設生活を送られている方のご家族からの施設に対する思いや要望・提案があがったりと施設にとっても有意義なご意見をいただくことができました。

頂戴したご意見等をもとに、今後の施設サービスに反映していきたいと思っております。



七夕会を開催しました

平成24年7月4日、ささやま老人保健施設において七夕会を開催いたしました。この会は、四季を感じていただくためのレクリエーションの一環として毎年開催しているもので、利用者の方々とともに短冊へ願いを書き、笹への飾りつけを行いました。当日は童謡「たなばたさま」をみんなで歌い楽しいひと時を過ごしました。

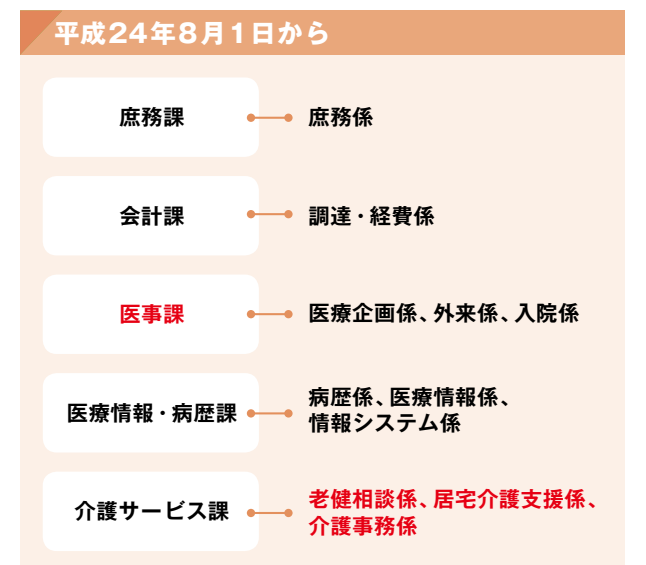
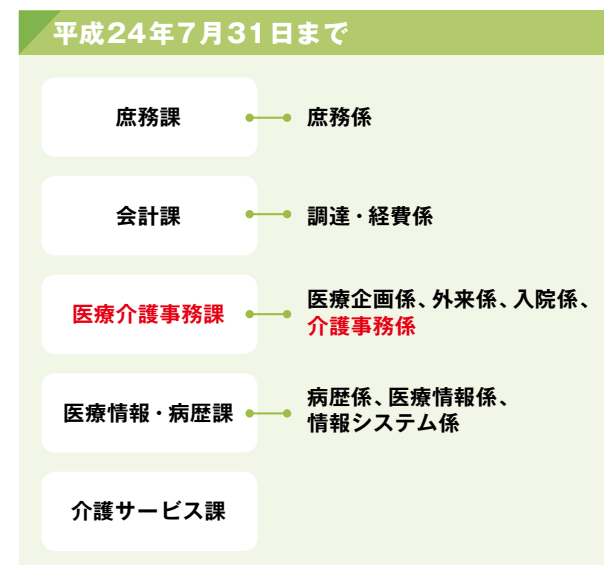
また、ささやま老人保健施設において実習中の兵庫医科大学看護学部生も七夕会に参加しました。施設行事を通して利用者の方々のいきいきとした一面に触れる機会があったことは、看護学部生にとっても有意義であったと思います。

職員（相談員、管理栄養士、介護職員、事務職員）で構成された“七夕盛り上げ隊”も、自前の浴衣の装いで両手にボンボンを持ち、頭に星を掲げ、看護学部生同様に七夕会を盛り上げ、利用者の方々は、きっと楽しい一日を過ごされたことと思います。



篠山事務部の組織改組

平成24年8月1日付で、篠山事務部の組織改組が行われました。医療介護事務課の介護事務を介護サービス課に移管し、あわせて介護サービス課に老健相談係、居宅介護支援係を置きます。また、医療介護事務課は医事課に名称を変更します。



■ 山村武平名誉教授(前病院長)に兵庫県知事から感謝状贈呈



山村武平名誉教授(前病院長)は平成16年、病院長に就任以来「ひょうご対がん戦略会議」委員を8年間務めるとともに、議長として6年間の長きにわたり同会議をリードしてきました。このたび、その功績をたたえ、

井戸敏三兵庫県知事より感謝状が贈られました。

特に平成18年度にがん対策基本法が制定されたのちは、国および各地方公共団体に責務が課せられ、

「ひょうご対がん戦略会議」の重要性が増す中、がん予防及び早期発見の推進、がん医療の均てん化推進、がん研究の推進等の重要事項について、兵庫県の政策を決定するため、各有識者の集まる会議で議長を務められ、兵庫県の公衆衛生の向上に大きな貢献をされました。

(「ひょうご対がん戦略会議」は昨年度から、「健康づくり審議会 対がん戦略部会」という名称に変更されました)



■ 急性医療総合センター 建設進捗

平成25年6月のオープンに向け、10号館東側に「急性医療総合センター」の建設が進められています。建物は今年12月に完成予定で、7月現在では最上階の7階までコンクリートの打設工事が完了しました。2階・3階は部屋ごとの間仕切りも建て込まれ、内部の工事も着々と進んでいます。1日平均160人、最大時には約300人の方々が建設に携わり、オープンに向けて工事を進めています。



急性医療総合センター完成予想図



コンクリートを1階から7階までポンプで吸い上げ、打設します。



武庫川線を望む東側は、ガラス張りの壁面になり、スタッフロウンジなどが設けられる予定です。



壁には断熱材のウレタンが吹き付けられています。



1階のポンプ車からクレーンに沿って7階までコンクリートを送り込んでいます。



酸素(緑の管)、エア(黄色の管)、バキューム(黒の管)の配管が天井に備え付けられています。

■ 省エネ・経費削減にご協力ください

本法人では積極的に省エネルギー、経費削減に取り組んでいます。例えば、西宮キャンパスにおいては、1号館熱源整備事業の実施、1・10号館換気系統空調機や1・2・5・8・9・10号館空調ポンプのインバータ制御導入、5号館では夏休み期間のエレベータ1基休止、照明の間引きなどを行い、平成19年度には約2,650万円に相当する省エネ・経費削減を実現し、その後も平成23年度まで、年平均1%の光熱使用量削減を継続しています。

平成24年度は以下のような取り組み項目を設定し推進しております。

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1 照明の減灯 2 事務・管理部門の事務室の昼休み消灯 3 トイレのウォシュレットの低温設定 4 空調省エネ温度設定を確実に守る 5 不在時の空調停止と消灯を行う(つけっぱしは禁止です) 6 パソコンの省電力設定を行う 7 3フロア以下の昇りはエレベータを使用せず、階段を使う(下りは可能な限り階段を使用する) 8 職員トイレの退室時の消灯(こまめに消しましょう) | <ul style="list-style-type: none"> 9 学内では使用済み封筒を利活用 10 グループウェアを積極的に活用し、紙での連絡通知文書を極力廃止(グループウェアを定期的に確認してください) 11 コピーの削減、会議での配布資料を極力削減(グループウェア・学内ネットを活用)念のためのコピーは止める会議資料の削減もったいない精神を常に持つ 12 事務用品を極力購入しない気軽に事務用品を購入していませんか?本当に必要ですか? |
|---|--|

これらの項目は教職員一人ひとりの心がけ・行動の積み重ねが大きいので、率先して取り組んでいただきますようお願いいたします。

■ 学校法人兵庫医科大学「うちわ」を作製・配布しました

外来、病棟、各検査室などでは患者さんの体調管理を優先するため、節電対策としての空調調整は行いませんが、節電啓発の1つとしてご自由にご利用いただける『うちわ』を昨年に引き続き作製し、初診受付・1号館および10号館入院会計、総合案内、採血待合、地域医療・総合相談センターの6箇所にて配布しました。また、ささやま医療センター及び兵庫医療大学にも配布しました。



報道機関等への出演・掲載

本学の取り組みや医療関連業務、医師等に対する取材、報道機関への出演・掲載情報をお知らせします。

本学ホームページにも最新情報を掲載しています！

兵庫医大 広報 テレビ放送

検索

兵庫医大 広報 新聞掲載

検索

テレビ放送情報一覧
 http://www.corp.hyo-med.ac.jp/public/tvinfo.html

新聞等掲載記事一覧
 http://www.corp.hyo-med.ac.jp/public/newspaper.html



テレビ出演情報 6月から7月

放送局	番組	放映日	関係者	概要
毎日放送	「ちちんぷいぷい」	6月1日	小児科 服部 益治 教授	風疹(3日ばしか)やロタウイルスについて生放送のスタジオにて解説。
関西テレビ	「ニュースJAPAN」	6月11日	兵庫医科大学卒業生 大類 隼人 さん (元呼吸器外科 助教)	2010年の地震で大きな被害を受けたハイチの医療を支援するため、大類さんが代表を務めるNGO「Future Code」が現地人医師2名を日本に招き、兵庫医科大学病院で研修を始めたことが紹介され、現地人医師育成プロジェクトの計画を説明した記者会見や研修の様子が放送された。
サンテレビ	「サンテレビニュース」 「NEWS PORT」			
毎日放送	「ちちんぷいぷい」	6月15日	小児科 服部 益治 教授	おねしょ(夜尿症)について生放送のスタジオにて解説。
朝日放送	「キャスト」	6月26日	小児科 服部 益治 教授	潜在的な脱水症状について解説。
SBS 静岡ラジオ	「朝だす」	7月5日	小児科 服部 益治 教授	熱中症と脱水について生放送にて解説。
読売テレビ	「サンデー・ドクター」 ・「水虫の予防と対策」 ・「完治できる！水虫の予防法と治療法」	7月8日 ・15日	皮膚科 夏秋 優 准教授	左記のテーマについて2週に渡り解説。
FM大阪・FM東京	「中西哲生のクロノス」	7月9日	小児科 服部 益治 教授	「かくれ脱水とは」をテーマに解説。
サンテレビ	「NEWS PORT」	7月24日	胸部腫瘍科 中野 孝司 教授	アスベストの健康被害についての特集の中で、アスベストによる中皮腫の症状や注意点などについて説明。
ABCテレビ	「おはよう朝日 土曜日です！」	7月28日	小児科 服部 益治 教授	熱中症の症状や対処法などについて生放送のスタジオで解説。



新聞・雑誌等 掲載情報 6月から7月

掲載媒体	掲載日	関係者	概要
丹波新聞	6月1日	環境予防医学 東山 綾 助教	篠山市と兵庫医科大学、ささやま医療センターが連携し、市民の健康向上のため健診結果などを5年間にわたって追跡調査する取り組みを実施しており、取り組みの内容やコメントが紹介された。
読売新聞	6月3日	—	「病院の実力」(精神科)において、兵庫医科大学病院の精神科の治療実績(2011年)データが掲載された。
朝日新聞	6月9日	皮膚科 夏秋 優 准教授	トコジラミが広がる兆しが出てきているという記事で、その症状について説明。
神戸新聞	6月11日	兵庫医科大学卒業生 大類 隼人 さん (元呼吸器外科 助教)	2010年の地震で大きな被害を受けたハイチの医療を支援するため、大類さんが代表を務めるNGO「Future Code」が現地人医師2名を日本に招き、兵庫医科大学病院で研修を始めたことが紹介され、現地人医師育成プロジェクトの計画や研修の様子が掲載された。
毎日新聞	6月12日		
朝日新聞	6月13日		
産経新聞	6月21日		
毎日新聞	6月12日	兵庫医療大学薬学部 山本 悟史 教授	「キャンパス通信ボーアイ4大学連携講座」の「薬の開発」と題した記事でコーナーにおいて、電気を使って薬の作用を調べる方法について寄稿。
神戸新聞	6月15日	地域救急医療学 吉永 和正 教授	6歳未満の子どもが初めて法的に脳死と判定されたことを受け、小児の臓器提供に関するコメントが掲載された。
毎日新聞	6月19日	兵庫医療大学薬学部 田中 稔之 教授	「キャンパス通信ボーアイ4大学連携講座」コーナーにおいて、免疫反応の仕組みやその研究などについて寄稿。
朝日新聞北摂版	6月20日	看護部 千島 佳也子 看護師	複雑な事故や災害の現場を想定し、治療的確さを競う「メディカルラリー」の国際大会にて、済生会千里病院千里救命救急センターを中心に結成したチームとともに参加し、世界3位に入賞を果たしたことを紹介した記事が掲載された。
読売新聞	6月21日	救命救急センター 橋本 篤徳 助教	「医療ルネサンス」のコーナーにて、高齢者の救急と題された連載記事の中で、救命救急センターでの事例やコメントなどが掲載された。
神戸新聞	6月22日	小児科 服部 益治 教授	「ワクチンデビューは生後2か月から」と題された座談会記事にて、コメントなどが掲載された。
毎日新聞	6月26日	兵庫医療大学薬学部 門林 宗男 教授	「キャンパス通信ボーアイ4大学連携講座」コーナーにおいて、医薬品を正しく使用するための薬学や薬剤師の役割について寄稿。
毎日新聞折込み (奥様メモ・カレンダー)	6月26日	皮膚科 山西 清文 教授 歯科口腔外科 浦出 雅裕 教授	「保存版 健康質問箱」のコーナーにて、監修を行った「金属アレルギー」の記事が掲載された。
読売新聞	7月1日	—	「病院の実力」(医療安全)において、兵庫医科大学病院の医療安全についての報告実績データが掲載された。
いきいきSMILE (毎日新聞大阪センター発行)	7月8日	リハビリテーション部 道免 和久 教授	6月23日に開催された「脳血管障害への下肢装具カンファレンス2012」にて講演され、講演の内容やコメントなどが掲載された。

掲載媒体	掲載日	関係者	概要
神戸新聞	7月8日	循環器内科 藤井 健一 講師	難治性高血圧の患者さんに対し、国内で第1例目となる手術での治療が兵庫医科大学病院で実施され、治療の内容と手術についてのコメントが掲載された。
毎日新聞	7月10日	兵庫医療大学薬学部 宮部 豪人 教授	「キャンパス通信ボーアイ4大学連携講座」コーナーにおいて、医薬品開発の基盤技術となる研究について寄稿。
徳島新聞	7月12日	小児科 服部 益治 教授	「気をつけようかくれ脱水」というテーマで、熱中症の対策などについてコメント。
神戸新聞	7月14日	泌尿器科 野島 道生 准教授	「ひょうごの医療」コーナーにおいて、腎移植の現状などについてコメント。
産経新聞	7月17日	上部消化管科 三輪 洋人 教授	逆流性食道炎の症状や治療法などを解説。
神戸新聞	7月20日	小児科 服部 益治 教授	服部教授が委員長をつとめる「教えて！『かくれ脱水』委員会」についての記事が掲載され、熱中症や脱水の危険の情報発信を行っていることが紹介された。
神戸新聞	7月20日	—	7月21日に開催される、兵庫医療大学×兵庫医科大学病院 合同イベント「絶対に他では聞けない！？クスリの話」の案内が掲載された。
神戸新聞	7月20日	—	8月25日・26日に兵庫医療大学で開催される「乳がん早期発見のための乳房セルフケアプログラム」の案内が掲載された。
毎日新聞	7月24日	兵庫医療大学薬学部 斎藤 あつ子 教授	「キャンパス通信ボーアイ4大学連携講座」コーナーにおいて、感染症の研究や感染症に対する教育活動について寄稿。
毎日新聞折込み (奥様メモ・カレンダー)	7月26日	皮膚科 夏秋 優 准教授	「保存版 健康質問箱」のコーナーにて、監修を行った「ダニアレルギー」の記事が掲載された。
産経新聞	7月27日	小児科 服部 益治 教授	熱中症時の脱水症状についてや対処法などについてコメント。
神戸新聞	7月28日	下部消化管外科 富田 尚裕 教授	6月23日に開催された大腸がんをテーマとした市民公開講座に座長として参加し、当日の講演の内容やQ&Aの内容などが掲載された。
神戸新聞	7月28日	小児科 服部 益治 教授	「ひょうごの医療」コーナーにおいて、夜尿症の症状や治療法などについてコメント。
読売新聞(関東版)	7月29日	内分泌・代謝科 森脇 優司 教授	「元気なう」のコーナーにて、尿酸値についてコメント。
読売新聞	7月30日	兵庫医療大学 リハビリテーション学部 山田 哲 講師	ロンドン五輪で金メダルを取った内村選手の演技の特徴についてコメント。
読売新聞	7月31日	小児科 服部 益治 教授	熱中症の症状や予防ポイントなどについてコメント。

※報道機関から広報課へ取材申込及び関係者より届け出があった情報を掲載しています。

教職員の皆さんへ

広報課では法人全体の報道機関などへの出演・掲載を把握し、ホームページや広報誌を通して皆様にご案内させていただいております。

報道機関等から、広報課を介さずに取材依頼や掲載許諾があった場合は広報課へご連絡ください。

規程等の制定・改正・廃止（規程等の全文は教職員専用ページに掲載）

No.	項 目	制定・改正・廃止の趣旨	制定・改正・廃止日
1	学校法人兵庫医科大学事務組織規程	篠山事務部における指示命令系統や他部署との調整・連携について現状に合わせるべく、①医療介護事務課介護事務係を、介護サービス課の介護事務係へ移管し、②介護サービス課に老健相談係、居宅介護支援係を設置、及び③医療介護事務課を医事課へ名称変更するため、改正。	平成24年8月1日
2	兵庫医科大学アーカイブズ設置準備委員会規程	開学40周年記念事業の一環としてアーカイブズの設置を行うにあたり、施設設置の形態や運営方針等を検討するための準備委員会を設置することとして同委員会規程を規定するため、制定。	平成24年6月19日
3	兵庫医科大学先端医学研究所規程	設置目的を明確にするため、また、部門長会議を現状に合わせ明確に規定するため、改正。	平成24年7月18日
4	病院規程	①中央放射線部を放射線医療センターへ、中央手術部を手術センターへ名称変更、②放射線医療センターの構成部門を画像診断部、放射線治療部、IVR診療部に名称変更するとともに核医学・PET診療部を追加、③中央部門に放射線技術部、臨床検査技術部の新設を行うため、改正。	平成24年8月1日
5	病院部長会規程	病院規程改正により、中央部門に放射線技術部と臨床検査技術部が新設されることに伴い、病院部長会の構成員に技師長を加えるため、改正。	平成24年8月1日
6	中央放射線部組織規程	病院規程改正に伴い、改正。	平成24年8月1日
7	核医学・PETセンター運営規程	病院規程改正に伴い、廃止。	平成24年7月31日
8	中央放射線部運営委員会規程	病院規程改正に伴い、改正。	平成24年8月1日
9	兵庫医科大学ささやま居宅介護支援事業所運営規程	利用者の増加に合わせ介護支援専門員を1名から2名へ増員すること等に伴い、運用の変更を行うため、改正。	平成24年6月1日
10	兵庫医科大学ささやま医療センター病院長選考規程	現行の篠山病院長選考暫定内規をほぼ踏まえ、新たに特段の理由があり理事会が認めた場合は4年を超えて更に2年間再任できることを定めるため、制定。	平成24年7月24日
11	篠山病院長選考暫定内規	上記制定に伴い、廃止。	平成24年7月23日
12	兵庫医科大学教育支援室規程	兵庫医療大学での教育の質向上や兵庫医科大学との連携教育を推進すること等を目的とし、教務部内に教育支援室を設置することになり、その取扱いを規定するため、制定。	平成24年8月1日
13	兵庫医科大学特別招聘教授に関する規程	学外から著名な教育研究者を招聘する場合の手続及び処遇について規定するため、制定。	平成24年8月1日

学校法人兵庫医科大学
 兵庫医科大学
 兵庫医科大学病院
 兵庫医科大学ささやま医療センター
 兵庫医療大学

学校法人兵庫医科大学基金 状況報告

本学校法人は、平成21年4月1日に学校法人兵庫医科大学基金を創設し、継続的な募金活動を開始するとともに、基金の活動を支援する組織として学校法人兵庫医科大学兵医・萌えの会を設け、その会員の皆様から会費を寄付金のかたちで募り、基金の運営に寄与することとしております。

寄付活動を開始して以来、患者様をはじめ、後援会会員、同窓会緑樹会会員、名誉教授、退職者等は言うに及ばず、協力医療機関や関連企業等の幅広い方々から、温かいお申し込みを賜り、厚く御礼申し上げます。

皆様方からご寄付いただきました貴重な浄財は、教育・研究環境の整備や学生への奨学金等の支援を通じて、社会への貢献・還元のために使用させていただきます。

今後とも引き続きご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

(募金推進室)
H21.1.1～24.6.30

区 分	受配者指定寄付金		特定公益増進法人		合 計	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
申 込	195件	36,505,000円	347件	22,577,498円	542件	59,082,498円
入 金	193件	35,955,000円	340件	22,262,498円	533件	58,217,498円

寄付申込者ご芳名・法人名一覧

H24.3.1～24.6.30

〔企業等法人〕(17法人)		〔その他個人〕(45名)	
(ご芳名のみ記載)		(ご芳名のみ記載)	
株式会社白洋舎ユニフォームレンタル西部事業所様		50,000円 木村 千代子様	50,000円 駒澤 勲様
有限会社 宝塚新樹園様		50,000円 福光 美草様	50,000円 榎谷 夏代様
アルフレッサ株式会社様		50,000円 馬場 亨様	10,000円 米原 知之様
株式会社スズケン西宮支店様		50,000円 永沼 不二夫様	10,000円 高尾 素子様
兵田印刷工芸株式会社様			
近畿医療設備株式会社様			
ヤンマーエネルギーシステム株式会社様			
サンベビー株式会社様			
大紡設備株式会社様			
有限会社 宝西冷熱工業所様	匿名 7社		
〔同窓会緑樹会〕(1名)			
(ご芳名のみ記載)			
米田 秀志様			
〔教職員〕(7名)			
50,000円 飯田 俊一様			
(ご芳名のみ記載)			
波田 壽一様	美内 雅之様		
坂元 譲次様	香川 清和様		
西原 力様	匿名 1名		



授業レポート03

「作業療法学科 臨床実習に向けての合同実技試験」
臨床実習に必要な技術を身に付ける

兵庫医療大学
リハビリテーション学部
作業療法学科



病院での臨床実習に向けて

作業療法学科では、第3学年次の9月から始まる本格的な病院などでの臨床実習に備えて、毎年7月初旬に教員が協力し合って臨床技術習得のための実技試験を行っています。今回はその試験当日の様子をお伝えします。

試験を通じて、臨床的技術を学ぶ

試験は、教員が模擬患者となり、実際の実習場面を模して行われます。試験時間は学生一人10分、最初の7分半で決められた試験項目を実施し、残りの2分半で教員のフィードバック・合否判定を受けます。学生は合格

するまで繰り返し挑戦します。試験の約1か月前から学生はクラスメイトと練習をして準備をし、当日の試験に臨みました。

試験の内容は①末梢神経損傷の手の評価、②脳卒中患者の移乗指導、③脳卒中患者の評価の3種類で、それぞれに“初対面の患者さん”、“退院後フォロー”など異なった場面設定があるので、学生には技術はもちろん、場面に応じた挨拶等コミュニケーション能力も求められます。また、説明が一方的になっていないか、患者さん(役)の「痛い」



という表情を見逃さないか、などもチェックされます。

最初は緊張で硬くなって自分のことで精一杯だった学生たちも、試験を繰り返すうちに余裕ができて患者さんがしっかり見えるようになりました。

学生たちは、この試験を通じ、臨床実習に必要な知識や技術はもちろん、気持ちも患者さんに寄り添えるように、準備することができたと思います。



私たちの地域、
私たちのフィールド

西宮、神戸、篠山を中心に、観光スポット、イベント、歴史、ニュース、豆知識などを紹介します。

ポートアイランドに設置された
スーパーコンピュータ「京(けい)」

昨年7月、神戸新交通ポートアイランド線(ポートライナー)の「ポートアイランド南駅」が「京(けい)コンピュータ前駅」に改称されました。「京」とは、独立行政法人理化学研究所と富士通株式会社が共同で開発を進めてきたスーパーコンピュータのことで、今年の6月29日に最終的な動作確認試験を終えて完成し、9月末からの共用が予定されています。

1秒間に1京回(1京=10ペタ=10の16乗)の演算性能を実現したその性能は、スーパーコンピュータの性能ランキング「TOP500」において2011年の6月と11月に世界第1位を2期連続で獲得。今後、「予測する生命科学・医療および創薬基盤」「防災・減災に資する地球変動予測」などさまざまな分野での活用が期待されています。

「京」の設置されている理化学研究所計算科学研究機構の1階には展示エリアもありますので、興味のある方はぜひ足を運んでみてください。

